



くれ

1031号

2026年 6月 16日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等からこの
情報が閲覧可！



メールはこちら→

無限地獄の集配業務



事故したら事故事例
誤配したら始末書
所在不明で大わらわ
ミスしたら大目玉

集配はほんま地獄じゃ
やろう思うてミスする奴は
おらんわ！
ほいで減区までして締め付け
るし給料に見おうてないわ
あんたらほんまに鬼じゃのう



いや悪魔ですよ

ブラックジャックによろしく 佐藤秀峰

物数調査

現状把握に十分なのか？

皆さん暑さの中、時折降ってくる大雨の中配達お疲れさまです。今年、5月20日と21日の二日にわたって物数調査が行われました。昨年までは、物数調査と言えば、用紙に小型や薄物の大区分の数字を取ったり、戸別作業では1ブロックごとに定型外や小型の郵便の箇所数を取

ったり、書留や速達とか追跡関係などの箇所数も取ったりと面倒くさい作業をしていました。それと、外の作業では、出発時間から帰局時間までの細かい時間を記入したり、歩行距離を記入したりと大変な作業でした。その分、残業も多かったです。今年、D O S Sに入

力した物数や配達作業の内容を確認してチェックシートにチェックするだけ。外の作業は20階以上のマンションと、セキュリティのマンションやアパートの対面配達と、ポスト前送の箇所数だけなのでそこまで難しくなかったと思います。定時で終われた区も多かったようですが、中にはタウンプラスを配って残業になった区もありました。

物数調査と言えば、残業が普通だと思っていたけど、定時で終われるとは、想像もできなかったと思います。この物数調査によって、ますます減区が進行しない事を望むばかりです。という、ある社員からの投稿がありました。物数調査といっても、最近では重量のある郵便物やゆうメールも多く、1日の配達物重量が100kgを超える区も多々あります。場合によっては取りに帰る区もあり、非常に手間が掛かっています。そういった意味でも、重量の調査をしないのはなぜなのか甚だ疑問ではあります。

また、始業前の時間前着手は、賛否ありますが対策を講じたため無くなつたようですが、休憩時間が1時間取れていない社員が見受けられ、休憩時間を割いてまで時間前着手している社員も多く見受けられます。また、休憩時間は適宜取って良いとされていますが、集配の社員は殆ど取れていないようです。そのような現状を把握出来ていないのであれば、物数調査は全く意味がないことになりそうです。実際の所、局では把握できているが、支社・本社までは伝わっていないのが現状ではないでしょうか？

今後の予定

●7月3～4日(金土)
第15回全国大会
APビル 会議室

●7月12日(日) 9:30～
第15回中国地方大会
広島市東区地域福祉センター